

熊本大学小児科専門研修プログラム

1. プログラムの概要・特徴

熊本大学の小児科専門研修プログラムでは、「小児医療の水準向上・進歩発展を図り、小児の健康増進および福祉の充実に寄与する優れた小児科専門医を育成する」ことを目的とし、一定の専門領域に偏ることなく、幅広い研修が可能です。初期研修後から開始され、研修期間は3年間のプログラムで実行されます。熊本大学病院および連携施設・関連施設の小児科の協力のもと、一般診療、小児救急医療、専門診療（血液・腫瘍、代謝・内分泌、腎臓、神経・筋、循環器、膠原病、感染・免疫、アレルギー、発達障害）、新生児医療、重症心身障がい（重心）医療を満遍なく研修します。研修可能な連携施設は、各々の施設が専門性の高い医療を提供しており、また、熊本県内全域を網羅した施設配置は熊本大学病院を中心とした熊本県内の地域完結型のネットワークで構築されており、研修に十分な体制となっています。さらに、各自治体が設ける地域枠の研修医にも対応したプログラムを作成しています。いずれの場合も研究期間中は、プログラム管理委員会が定期的に研修状況のチェックを行い、研修する各医師への個別指導を行うことで、より良い研修となるように配慮されています。

2. 研修の目標

（一般目標および行動目標）

3年間の小児科専門研修では、日本小児科学会が定めた「小児科医の到達目標」のレベルAの臨床能力の獲得をめざして熟練した指導医の下で研修を行います。研修終了時の小児科専門医の獲得を達成できる、専門医機構の承認を得たプログラムです。

3. 研修の方略

a. 研修期間

3年間、基幹施設（大学病院）ならびに連携施設・関連施設の各病院の小児科にて研修目標を到達できるようにプログラムが設定されています。最終年時には、専門医試験を受験して専門医を取得するとともに、小児科サブスペシャリティの決定を行いさらなるステップアップを行います。

b. マイルストーン

1年次	健康な子どもと家族、common diseases、小児保健・医療制度の理解 基本的診療技能（面接、診察、手技）、健康調査法の修得 小児科総合医、育児・健康支援者としての役割を自覚する
2年次	病児と家族、重症疾患・救急疾患の理解、診療技能に習熟し、重症疾患・救急疾患に的確に対応できる 小児科総合医としての実践力を高める、後輩の指導
3年次 (チーフレジデント)	高度先進医療、希少難病、障がい児に関する理解、高度先進医療、希少難病、障がい児に関する技能の修得、子どもの代弁者、学識者、プロフェSSIONALとしての実践 専攻医とりまとめ、後輩指導、研修プログラムへの積極的関与

c. 専門医認定までのスケジュール

研修期間中には、プログラム管理委員会から構成されるサポートチームが定期的に研修の進捗状況を確認して、各個人に特化した調整を行います。また、専門医取得の必須条件として論文を作成する

必要があり、こちらについてもサポートチームが補助します。3年間の専門研修プログラム終了し、翌年の9月頃に小児科専門医の試験を受験することになります。専門医試験の該当者については、該当する年度の4月に専門医受験に対する講習会を開催しています。

d. 小児科専門医取得後の進路（事例）

- ・大学病院あるいは熊本赤十字病院において各種専門分野におけるサブスペシャリティー研修
- ・サブスペシャリティーにおける専門医取得
- ・大学院（医学博士号の取得）
- ・国内・国外留学、
- ・その他、関連病院小児科勤務、開業、行政 等

4. 研修の評価

定期的に知識・技術などの到達度を適宜評価します。評価方法は、各研修施設で実施される6ヶ月ごとの中間評価（Mini-CEX, DOPS など）、各年度終了時に実施される年度評価（Mini-CEX, DOPS, **360度評価**など）などを実施し、指導医とともに研修医が到達度のチェックを行います。また、研修施設のチェックとは別に、プログラム管理委員会が研修状況のチェックと修正を年に数回行います。これまでの実績では、専門修練3年間の研修を全うすることで（初期研修を含めて5年間）、ほぼ全員が日本小児科学会認定の小児科専門医取得のための資格を得ることができるプログラムに計画されています。筆記試験、症例要約評価、面接試験を受け、小児科専門医を取得します。

5. 研修実施責任者：中村公俊

6. 研修指導責任者：阿南 正（小児科学）、三淵 浩（新生児学）

7. 関連施設及び当該施設の学会認定状況

プログラム連携施設：熊本赤十字病院、熊本市市民病院、熊本中央病院、熊本地域医療センター、
国立病院機構熊本医療センター、国立病院機構再春医療センター

プログラム関連施設：熊本労災病院、くまもと県北病院、水俣市立総合医療センター、人吉医療センター、天草地域医療センター、県立延岡病院、国立病院機構都城医療センター、小国公立病院、熊本県こども総合療育センター、阿蘇医療センター、福田病院、くまもと芦北療育医療センター、くまもと江津湖療育医療センター、荒尾市市民病院 など

8. その他

a. 過去7年間のプログラム参加者（プログラム開始前は入局者数に該当する）：

平成25年	10人（男性8、女性2）	平成26年	6人（男性4、女性2）
平成27年	6人（男性6、女性0）	平成28年	7人（男性4、女性3）
平成29年	4人（男性2、女性2）	平成30年	9人（男性3、女性6）
令和元年	9人（男性4、女性5）	令和2年	7人（男性3、女性4）
令和3年	7人（男性6、女性1）	令和4年	1人（男性0、女性1）

b. 教室の詳細は下記のホームページにて掲載

<https://plaza.umin.ac.jp/kumapediat/>

9. 連絡先（担当者）

医局長：小篠 史郎 e-mail: ozasas@kumamoto-u.ac.jp
 研修指導担当：櫛村 哲生 e-mail: naramuratetsuo@kuh.kumamoto-u.ac.jp
 プログラム管理担当：松本 志郎 e-mail: s-pediat@kumamoto-u.ac.jp
 TEL 096-373-5191（小児科医局）